

沙流川ダムフェスタを開催しました！！

令和7年7月26日(土)に平取町及び北海道森林管理局日高北部森林管理署と、「共創」の取組の一環で『沙流川ダムフェスタ』を開催しました。今年で3回目の開催となるこのイベントは、森林やダム等の重要性を理解していただくことを目的とした「森と湖に親しむ旬間」にあわせて実施しています。

二風谷ダム



二風谷ダムの見学は、普段立ち入ることのできない「監査廊」「ゲート室」を通り、「洪水吐」からの迫力ある放流を間近で見させていただきました。 ※「監査廊」：点検用の通路
ダム見学の他に「流木工作体験」を開催し、ダム湖に流れ着いた流木で「ペン立て」「スマホスタンド」など、思い思いの流木工作を体験していただきました。



共同主催の日高北部森林管理署による「樹木紹介イラストパネル」とともに、まるで森林にいるかのようなリアルな風景が見られるVRゴーグルを使用した「森林整備事業紹介」も来場者の目をひいていました。

平取ダム



平取ダムの見学では、直下にある「下流エリア」からダムを仰ぎ見てもらい迫力を体感し、「監査廊」では勾配のきつい階段をみんなで頑張って登りました。
ダム見学の他に、平取ダム管理棟併設の「ノカピライウォーク・ビジターセンター」にて、平取町職員から、ダム建設地におけるアイヌ文化保全の取組を紹介していただきました。

今回のダム見学の参加者は、年齢層は11歳から65歳までと幅広く、来訪地域も道内外各地から来ていただきました！遠方は、なんと千葉県からも！
アンケートでは「感動した！」「地震発生時に点検することは初めて知った！」「ダムを造る意味が分かった！」特に「ダムの内部を見ることができて良かった！」というご意見を多くいただきました。
ダムの目的を知ってもらうだけでなく、普段、直接反応を伺う機会が少ない開発局職員にとっても貴重な機会になりました。
また、「引き続き地域のために頑張ってください」という暖かいお言葉があり、その言葉を励みにダム管理に取り組みます！！
(説明職員の歩いた距離は10km超えでしたが、その疲れもふきとびました！)

シンポジウム

「日高から考える持続可能な観光と地域づくり」を開催しました！



令和7年8月5日(火) 浦河ウエリントンホテルにて、日高で活躍している挑戦者とともに、これからの**観光と地域づくり**について考える「シンポジウム」を開催しました！

会場には定員を超える107名が来場し、Web参加も104名と大盛況でした。



基調講演では、石黒准教授から「資源を魅力に変える～これからの観光地域づくりに求められる3つの視点」をテーマにご講演をいただきました。

続くパネルディスカッションでは、日高管内で挑戦的な取組を行っているパネリストの皆さまから、「地域づくり活動を行う上での苦労や課題、どのように乗り越えてきたか」、「地域づくりに向けてチャレンジしたいこと」についてお話していただきました。

日高の魅力を伝える情報発信の重要性や、**観光と地域づくり**におけるネットワークの必要性など、活発な意見交換が行われました。

講演資料や詳しい内容については、北海道開発局室蘭開発建設部のHPに掲載しております。

https://www.hkd.mlit.go.jp/mr/tiiki_sinkou/jre2p60000001i86.html

(↑北海道開発局室蘭開発建設部HP→)



ご参加いただきました皆さま、ありがとうございました！

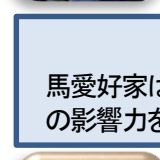
○パネルディスカッションの内容(一部)をご紹介します

～パネリスト～



鈴木 宏紀 氏(自然考房 Nature Designing 代表)

観光事業者、行政関係者が日ごろの交流を通して、顔が見えるネットワークを築いておくことが必要。



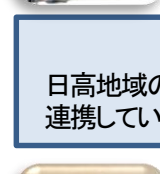
千本木 倫子 氏(浦河町地域おこし協力隊)

馬愛好家はSNSなどでの情報発信力が非常に高い。地域もその情報発信の影響力をうまく活用していくことが重要。



山田 桜子 氏(株式会社NEPKI 代表)

「日高に行こう」と思ってもらえるイメージづくりと情報発信、それを企画するネットワークの強化が重要。



橋本 勝司 氏(ぼると・みついし 代表)

日高地域の情報発信に関して十分な連携が取れておらず、観光関係者で連携していくことが必要。

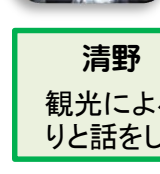


コーディネーター

石黒 侑介 氏(北海道大学大学院国際広報メディア・観光学院 准教授)

日高地域には様々な挑戦者がいるため、地域の中でネットワークができれば、さらに大きな取組ができるようになるのではないかと。

コメンテーター



清野 信也 氏(国土交通省北海道運輸局観光部 次長)

観光による持続可能な地域づくりを行うためには、地域でしっかりと話をしていくことが原点。また、データに基づく分析が重要。

